

# 産婦人科学

## 1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（ 2人）
助教（うち病院籍）	6人（ 2人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	1人
特任研究員	1人
大学院学生（うち他講座から）	3人（ 0人）
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	4人
合 計	21人

## 2 教員の異動状況

- 金山 尚裕（教授）（H11. 11. 1～現職）
- 杉村 基（准教授）（H14. 10. 1～19. 3. 31 助教授；19. 4. 1～H20. 12. 31退職）
- 杉原 一廣（准教授）（H19. 3. 1～19. 3. 31 助教授；19. 4. 1～現職）
- 伊東 宏晃（講師）（H20. 7. 1～現職）
- 竹内 欽哉（講師）（H19. 4. 1～現職）
- 幸村 康弘（助教）（H17. 7. 1～19. 3. 31 助手；H19. 4. 1～現職）
- 宮部 勇樹（助教）（H17. 7. 1～19. 3. 31 助手；H19. 4. 1～現職）
- 木村 聡（助教）（H17. 6. 1～19. 3. 31 助手；H19. 4. 1～H20. 6. 30退職）
- 鈴木 一有（助教）（H19. 6. 1～現職）
- 村上 裕介（助教）（H20. 4. 1～現職）
- 中村 友紀（助教）（H20. 10. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	11編（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	35.71

(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	24編 ( 22編)
そのインパクトファクターの合計	3.67
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	10編 ( 10編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	0編 ( 0編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Sugihara K, Kabir-Salmani M, Byrne J, Wolf DP, Lessey B, Iwashita M, Aoki D, Nakayama J, Fukuda MN: Induction of trophinin in human endometrial surface epithelia by CG $\beta$  and IL-1 $\beta$ . FEBS Lett 23: 582(2):197-202, 2008.

インパクトファクターの小計 [3.26]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Suzuki N, Uebaba K, Kohama T, Moniwa N, Kanayama N, Koike K: French Maritime Pine Bark Extract Significantly Lowers the Requirement for Analgesic Medication in Dysmenorrhea. J Reprod Med 53(5): 338-346, 2008.
2. Sasaki H, Itoh H, Matsumoto H, Takahashi S, Sato Y, Yamada S, Okagaki A, Kuzushita N, Ban C: Case of Budd-Chiari syndrome 3 months after vaginal delivery. J Obstet Gynecol 34(4): 605-608, 2008.
3. 西口富三, 河村隆一, 横山普子, 長崎ことみ, 平井久也, 杉村基, 金山尚裕, 中島彰: 産褥期におけるPIVKAの動態 ビタミン 82(12): 637-643, 2008.
4. Kabir-Salmani M, Fukuda MN, Kanai-Azuma M, Ahmed N, Shiokawa S, Akimoto Y, Sakai K, Nagamori S, Kanai Y, Sugihara K, Iwashita M: The Membrane-Spanning Domain of CD98hc Promotes  $\alpha$  v  $\beta$  3 Integrin Signals in Human Extravillous Trophoblasts. Mol Endocrinol 22(3): 707-715, 2008.
5. Hatakeyama S, Sugihara K, Lee Seung Ho, Nadano D, Nakayama J, Ohyama C, Fukuda MN: Enhancement of human sperm motility by trophinin-binding peptide. J Urology 180(2): 767-771, 2008.
6. Shimizu Y, Kabir-Salmani M, Sugihara K, Sakai K, Iwashita M: Expression and Localization of Galectin-9 in the Human Uterodome. Endocr J 55(5): 879-887, 2008.
7. Hatakeyama S, Sugihara K, Nakayama J, Akama T, Suk-Man Wong, Kawashima H, Zhang J, Smith D, Ohyama C, Fukuda M, Fukuda MN: Identification of mRNA splicing factors as the endothelial receptor for carbohydrate-dependent lung colonization of cancer cells. P Natl Acad Sci USA 106(9): 3095-3100, 2009.
8. Sudzuka Y, Iwasaki F, Sugiyama I, Horiuchi K, Hirano T, Ozawa H, Kanayama N, Oku N: Phototoxicity of coproporphyrin as a novel photodynamic therapy was enhanced by liposomalization. Toxicol Lett 10(182): 110-114, 2008.

9. Hayashi T, Mogami H, Murakami Y, Nakamura T, Kanayama N, Konno H, Urano T: Real-time analysis of platelet aggregation and procoagulant activity during thrombus formation in vivo. Pflugers Arch 456(6): 1239-1251, 2008.
10. Sasaki S, Itoh H, Matsumoto H, Takahashi S, Sato Y, Yamada S, Okagaki A, Kuzushita N, Ban C: A Case of Budd-Chiari syndrome occurred three months after vaginal delivery. J Obstet Gynaecol Res 34: 605-605, 2008.
11. Kitamura E, Miki Y, Kawai M, Itoh H, Yura S, Mori N, Sugimura K, Togashi K: Tl-signal intensity of the anterior pituitary in neonates: relationship with gestational age and difference between preterm and full-term neonates. Am J Neuroradiol 29: 1257-1260, 2008.

インパクトファクターの小計 [32.46]

### (3) 総 説

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 鈴木一有, 金山尚裕: 水様帯下 産科救急の初期診療: 68-75, 2008.
2. 鈴木一有, 金山尚裕: 胎盤機能異常から見た子宮内発育遅延 産科と婦人科 75(8): 984-989, 2008.
3. 和田久恵, 西口富三, 金山尚裕: 外陰部違和感に対し八味地黄丸が功奏した2症例 産婦人科漢方研究のあゆみ25: 91-94, 2008.
4. 金山尚裕: 帝王切開術 日本産科婦人科学会雑誌研修コーナー 60(5): 100-103, 2008.
5. 金山尚裕, 河村隆一, 照井克生: 帝王切開術の麻酔 日本産科婦人科学会雑誌研修コーナー 60(5): 104-110, 2008.
6. 杉村基, 平井久也, 金山尚裕: 呼吸器症状 ペリネイタルケア 350: 26-31, 2008.
7. 杉村基: 産科DICの管理 周産期医学 38(7): 793-798, 2008.
8. 村上裕介, 安立匡志, 宮部勇樹, 幸村康弘, 杉原一廣, 金山尚裕: 右鼠径部リンパ節移転より判明した卵巣癌の1例 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 45(4): 385-391, 2008.
9. 金山尚裕: 早産マーカー 周産期医学 38増刊号: 62-64, 2008.
10. 田中晶, 金山尚裕: 分娩後の出血⑥凝固異常-分娩後, サラサラした凝固しにくい出血が続く- ペリネイタルケア28(3): 49-53, 2009.
11. 伊東宏晃: 妊婦の栄養と児の長期予後-疫学から学ぶことの限界, そして今後の課題- 愛知母性衛生学会誌 26: 31-35, 2008.
12. 伊東宏晃: 胎生期の低栄養環境と成長後における肥満発症 ILSI JAPAN 94: 73-75, 2008.
13. 伊東宏晃: 妊産婦管理からみた肥満とやせ/肥満とその対策 産婦人科治療 97: 357-362, 2008.
14. 伊東宏晃: 頸管熟化が不良である場合 そのとき行いたいケアとは/予定日超過と過期妊娠の管理 ペリネイタルケア 27(11): 21-26, 2008.
15. 伊東宏晃, 金山尚裕: 妊婦の栄養状態をどう評価するか 周産期医学 38(12): 1503-1508, 2008.
16. 伊東宏晃: 妊婦の栄養が胎児に与える影響 周産期医学 38(12): 1509-1513, 2008.

17. 伊東宏晃：胎盤因子／胎盤機能不全の原因／胎盤機能不全 臨床産婦人科 62(12): 1531-1535, 2008.
18. 杉原一廣：胚接着分子トロフィニンを介する細胞内情報伝達機構と着床率・妊娠率の改善を目指したトランスレーショナルリサーチ HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 16 (1): 192-195, 2009.
19. 伊東宏晃：過期妊娠における子宮頸管熟化と分娩誘発 産婦人科治療 周産期医療プラクティス 96: 720-726, 2008.
20. 和田久恵, 西口富三, 金山尚裕：わが教室における女性漢方外来 産婦人科治療 98: 81-85, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中井祐一郎, 橘 大介, 荻田和秀, 亀谷英輝, 堂 國日子, 衣笠万里, 伊東宏晃, 西尾順子, 下屋浩一郎：産科出血に対する輸血の実態と問題点の検討 産婦人科の実際57(13): 2177-2183, 2008.
2. Fukuda MN, Sugihara K: An integrated view for L-selectin and trophinin function in human embryo implantation. J Obstet Gynecol Re 34(2): 129-136, 2008.
3. Fukuda MN, Sugihara K, Nakayama J: Trophinin: what embryo implantation teaches us about human cancer. Cancer Biol Ther 7(8): 1165-1170, 2008.
4. 佐藤幸保, 伊東宏晃：やせ・肥満妊婦への保健指導／リスク因子を抱えた妊婦に必要な保健指導 ペリネイタルケア 27: 13-16, 2008.

インパクトファクターの小計 [3.67]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕：5. 月経困難, 6. 思春期の妊娠・分娩・避妊, 7. 月経予定日の変更, 8. 画像診断 小科科学 第3版 医学書院: 1472-1476, 2008.
2. 金山尚裕：3. 妊娠異常 (E. 早産) 産婦人科学テキスト 中外医学書: 462-464, 2008.
3. 木村聡：2. 妊婦の診察 (A. 問診・外診・内診, B. 妊娠初期検査, C. 妊婦検診, D. 妊婦の生活指導) 産婦人科学テキスト 中外医学書: 421-437, 2008.
4. 金山尚裕：周産期臨床検査のポイント 13. 早産マーカー 周産期医学 (38) 東京医学社: 62-64, 2008.
5. 田中晶, 杉村基, 金山尚裕：播種性血管内凝固症候群 (DIC), わかりやすい周産期・新生児の輸血治療 メジカルビュー社: 159-166, 2009.
6. 金山尚裕, 寺尾俊彦：2. 切迫早産 産婦人科研修ノート 診断と治療社: 335-337, 2009.
7. 伊東宏晃：9. 妊娠と出産の留意点 やさしいシェーグレン症候群の自己管理 住田孝之編 医薬ジャーナル社: 109-114, 2008.
8. 伊東宏晃：視床下部-下垂体-副腎系と DOHaD-その基礎と臨床- 生活習慣病の根源を探

る：胎生期から乳児期までの環境と成人期の健康問題 金原出版: 59-64, 2008.

9. 田中晶, 杉村基, 金山尚裕：血液疾患合併妊娠 周産期診療プラクティス 永井書店: 206-210, 2008.
10. 伊東宏晃：過期妊娠における子宮頸管熟化と分娩誘発 周産期診療プラクティス 永井書店: 284-290, 2008.

#### 4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	5件 (1,530万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 ( 0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 ( 0万円)
(4) 財団助成金	3件 ( 800万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 ( 100万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	20件 (1,140万円)

##### (1) 文部科学省科学研究費

金山尚裕（代表者）基盤研究（B）母体腹壁からの非侵襲的胎児酸素モニタリングの開発 370万円（継続）

金山尚裕（分担者）基盤研究（B）胎児アセスメントモデルのe-ラーニング教育教材の開発 20万円（新規）

杉村 基（代表者）基盤研究（C）プロスタグランジン受容体EP4を介した子宮頸管熟化制御機構の検討 70万円（継続）

杉原一廣（代表者）基盤研究（B）腫瘍血管内皮を標的とする分子標的治療薬の開発 940万円（新規）

木村 聡（代表者）基盤研究（C）羊水塞栓症の原因究明と羊水塞栓症からDICを発症する機序に関する血清学的研究 130万円（新規）

##### (4) 財団助成金

杉原一廣（代表者）財団法人上原記念生命科学財団「糖鎖をmimicするペプチドを用いた分子標的治療薬の開発」500万円（継続）

杉原一廣（代表者）財団法人高松宮妃癌研究助成基金「悪性腫瘍血管内皮細胞を標的とする分子標的治療薬」200万円（継続）

伊東宏晃（代表者）糧食研究会研究助成金「胎生期の低栄養環境と成長後における肝臓糖新生の中枢制御におよぼす影響の解析」100万円（新規）

(5) 受託研究または共同研究

伊東宏晃（分担者）国立循環器病センター「メタボリック・シンドロームの発症予防に資する胎児期・乳幼児期の関連要因の解明に関する研究」100万円（新規）

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	10件
(2) シンポジウム発表数	2件	5件
(3) 学会座長回数	0件	13件
(4) 学会開催回数	0件	2件
(5) 学会役員等回数	1件	31件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Sugihara K, Hatakeyama S, Nakayama J, David Smith, Fukuda M, and Fukuda N M: TARGETED APOPTOSIS OF TUMOR VASCULATURE BY CARBOHYDRATE-MIMICRY PEPTIDE. the 6th International GlycoT 2008 meeting in Atlanta, Georgia, USA, May 17-20, 2008.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kanayama N: Pathological Analysis of Maternal Death in Japan. The X V th Asian Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology, May, Nagoya, Japan, 2008.
2. Itoh H: Developmental Origins of adult Obesity -A Potential Problem un Japanese People- The 8th Keyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium, Hamamatsu, Japan, September 26, 2008.

5) 一般発表

口頭発表

1. Itoh H, Kawamura M, Yura S, Sagawa N, Kanayama N: Local Cardiac Angiotensin System in the Developmental Origins of Cardiovascular Disorders -A Promising Prophylactic Use of Angiotensin II Receptor Blocker-. 56th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI) , Glasgow, Scotland, March 17-21, 2009
2. Kobayashi Y, Itoh H, Kawamura M, Yura S, Sagawa N, Kanayama N: The Effect of Under-nutrition in utero on Adult Mice Adipose Tissue Metabolism. 56th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation (SGI) , Glasgow, Scotland, March 17-21, 2009.

## (2) 国内学会の開催・参加

### 1) 主催した学会名

金山尚裕 第16回日本胎盤学会 11月13日 浜松

金山尚裕 第26回日本絨毛性疾患研究会 11月13～14日 浜松

### 2) 学会における特別講演・招待講演

1. 金山尚裕：母体のアンチエイジング，日本抗加齢医学会主催専門医・指導士単位研修講習会 4月 大阪
2. 金山尚裕：産科領域からみたアンチエイジング（女性ホルモンと女性の健康），第16回日本成人矯正歯科学会 6月 東京
3. 金山尚裕：妊産婦死亡と羊水塞栓症・産科DIC，第3回総合周産期実践医（GPP）育成セミナー 10月 宮城
4. 金山尚裕：妊婦健診のポイント 第24回日本分娩研究会 11月 千葉
5. 伊東宏晃：妊婦の栄養と児の長期予後－疫学から学ぶこととその限界，そして今後の課題－ 愛知母性衛生学会 第5回秋期学術セミナー 9月 名古屋
6. 伊東宏晃：周産期の母体環境から考える生活習慣病～産科医の立場から～ 平成20年度厚生労働省循環器病研究委託事業シンポジウム 10月 大阪
7. 伊東宏晃：Developmental origins of obesity 浜松医科大学精神科・子どものこころの発達研究センター合同セミナー 10月 浜松
8. 伊東宏晃：胎生期の栄養環境と成人後の健康について 第190回三水会 11月 鹿児島
9. 杉原一廣：胚と子宮の接着に着目した着床機構 第16回日本胎盤学会学術集会 11月 浜松
10. 伊東宏晃：症例から学ぶ深部頸管裂傷 奇松会 1月 浜松

### 3) シンポジウム発表

1. 杉村基：活性化プロテインC（APC）感受性に基づいた深部静脈血栓症（DVT）肺血栓症（PTE）簡易凝固マーカー測定システムの構築 第18回日本産婦人科・新生児血液学会 6月 福岡
2. 木村聡：羊水塞栓症と常位胎盤早期剥離～羊水塞栓症の診断（鑑別を要する疾患と予後因子）～ 第18回日本産婦人科・新生児血液学会 6月 福岡
3. 平井久也：内因性トロンビン産生能に基づく活性化プロテインC感受性簡易測定系の確立，第31回日本血栓止血学会 11月 大阪
4. 杉原一廣：「難治性着床不全ならびに不育症に対する治療の試み」トロフィニンに着目した着床不全改善に対する治療の試み 第23回日本生殖免疫学会総会・学術講演会 12月 富山
5. 杉原一廣，吉村泰典，金山尚裕：着床における接着分子トロフィニンを誘導するビーズを用いた着床率改善のためのトランスレーショナルリサーチ 日本受精着床学会 8月 福岡

#### 4) 座長をした学会名

金山尚裕 第60回日本産科婦人科学会総会 4月 横浜  
杉村 基 第60回日本産科婦人科学会総会 4月 横浜  
杉村 基 第81回日本超音波医学会 5月 神戸  
金山尚裕 第115回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会 6月 東京  
宮部勇樹 平成20年度春季日本産科婦人科学会静岡県地方部会 6月 静岡  
金山尚裕 第18回日本産婦人科・新生児血液学会 6月 福岡  
金山尚裕 静岡県胎児・周産期・新生児臨床研究会 6月 静岡  
金山尚裕 第44回日本周産期・新生児医学会 7月 横浜  
伊東宏晃 第44回日本周産期・新生児医学会 7月 横浜  
金山尚裕 JSAWI2008 9月 淡路  
金山尚裕 第29回日本妊娠高血圧学会 10月 福島  
伊東宏晃 第26回周産期医療研究会 11月 奈良  
竹内欽哉 第8回東海不妊内分泌研究会 1月 静岡

#### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

金山尚裕 日本産婦人科学会代議員  
金山尚裕 日本胎盤学会理事  
金山尚裕 日本妊娠高血圧学会理事  
金山尚裕 日本産婦人科学会関東連合地方部会理事  
金山尚裕 日本栄養代謝学会理事  
金山尚裕 日本周産期新生児学会評議員  
金山尚裕 日本母性衛生学会評議員  
金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会評議員  
金山尚裕 日本産婦人科ME学会常任幹事  
金山尚裕 日本結合組織学会評議員  
金山尚裕 中部不妊学会評議員  
金山尚裕 静岡県ウィルス研究会幹事  
金山尚裕 静岡県母性衛生学会常任理事  
金山尚裕 日本産婦人科医会静岡県支部理事  
金山尚裕 The Journal of Obstetrics and Gynecology Research査読委員  
金山尚裕 Program committee of 3rd Society for Gynecologic Investigation (SGI) Summit  
2009学科会主催委員  
杉村 基 日本産婦人科学会代議員  
杉原一廣 日本産科婦人科学会代議員  
杉原一廣 静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員  
杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員  
杉原一廣 静岡CTC (Cancer Therapy Conference) 世話人



- 杉原一廣 静岡サイコオンコロジー研究会世話人
- 杉原一廣 The Journal of Obstetrics and Gynecology Research査読委員
- 杉原一廣 Kanto Journal of Obstetrics and Gynecology査読委員
- 杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡地方部会誌査読委員
- 伊東宏晃 日本周産期・新生児医学会評議員
- 伊東宏晃 日本内分泌学会代議員，評議員
- 伊東宏晃 日本心血管内分泌代謝学会評議員
- 伊東宏晃 日本妊娠高血圧学会代議員，評議員
- 伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成21年度－平成23年度；周産期委員会，周産期医療における未承認薬の承認にむけての活動委員
- 伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成21年度－平成23年度；周産期委員会，早産のリスク因子の解明と具体的な予防法確立に関する小委員会委員
- 伊東宏晃 Program committee of 3rd Society for Gynecologic Investigation (SGI) Summit 2009学科会主催委員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	2件

### (2) 外国の学術雑誌の編集

伊東宏晃：Journal of Developmental Origins of Health and Disease (ISSN: 2040-1744)

伊東宏晃：Medical Biochemistry (ISSN 1027-0256)

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

金山尚裕：The Journal of Obstetrics and Gynecology Research, 1回, Japan

杉原一廣：The Journal of Obstetrics and Gynecology Research, 1回, Japan

杉原一廣：KANTO JOURNAL OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY, 1回, Japan

## 9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	1件

### (2) 国内共同研究

金山尚裕 子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（昭和大学，国立国際医療センター，浜松ホトニクス）

金山尚裕 コンピュータシミュレーションによる難産診断装置の開発（川崎医療短大）

金山尚裕 ウリナスタチンによる早産防止の検討（日本早産予防研究会）

(3) 学内共同研究

金山尚裕 子宮頸癌のPDT治療（光量子センター，生命科学）

## 10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	1件

1. 金山尚裕 子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（浜松ホトニクス）

## 11 受賞

(3) 国内での受賞

杉原一廣：財団法人高松宮妃癌研究基金助成「悪性腫瘍血管内皮細胞を標的とする分子標的治療薬」平成20年4月

杉原一廣：上原記念生命科学財団助成「糖鎖を代用するペプチドを用いた分子標的薬」平成20年4月

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光学的手法を用いた胎盤の酸素動態を測定するための機器の開発

胎児の非侵襲的生化学的モニタリング法を開発を行っている。胎盤の酸素動態を直接あるいは間接的に監視できる機器の開発に成功した。これを用いて臨床的有用性を検討した。平成17年度より他施設共同研究を開始した。

（金山尚裕）

2. 新規光増感剤亜鉛コプロポルフィリンの開発（COEプロジェクト）

平成14年より本学で採用されたCOEプロジェクトメンバーとして子宮頸癌の新規光増感剤作成のプロジェクトチームを立ち上げた。副作用の少ない光増感剤を胎児由来成分から探求するのが目的である。その中から亜鉛コプロポルフィリンが胎児由来な有望な光増感剤であることを見出し特許を提出した。

（金山尚裕）

3. 光増感剤の局所投与キットの開発

現在子宮頸癌の光線力学治療に使用されているフォトフィリンは光過敏性物質であるため、治療後約4週間の入院が必要であった。局所投与で静脈投与と同程度の効果を発揮するキットを開発した。これを用いると入院期間が大幅に短縮されることが考えられる。今後臨床応用を行う予定である。

（金山尚裕）

4. 静脈血栓症の血液凝固学的予知マーカーは従来よいものは存在しなかった。プロテインCの感受性を測定する簡易方法を開発した。これを用いて妊婦の深部静脈血栓症，肺血栓塞栓症の予知

が可能になる。

(杉村 基, 金山尚裕)

5. 糖鎖構造と癌転移機構に着目し糖を代用するペプチドを同定した。さらに、未知の糖鎖構造に対するレセプターが肺血管内皮細胞に発現するser/arg-rich alternative mRNA splicing factor (Sfrs) であり、Sfrsを発現する肺血管内皮細胞を標的とする薬剤を投与すると肺転移を完全に抑制できることを報告した。

(杉原一廣)

## 15 新聞, 雑誌等による報道

1. 「転移するがん細胞キャッチ 肺血管の受け皿発見」 中日新聞 2009年 2月 1日
2. 「漢方外来増える大学病院」 静岡新聞 2009年 3月30日